

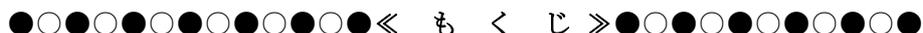
一般社団法人 教育システム情報学会

Japanese Society for
Information and Systems in Education

ニュース・レター No.237



発行日 2022年4月5日
発行所
一般社団法人
教育システム情報学会
発行者 柏原 昭博
〒162-0801
東京都新宿区山吹町358番地5
アカデミーセンター
URL <https://www.jsise.org>
E-MAIL secretariat@jsise.org



第47回 JSiSE 全国大会のご案内・・・2	特集論文研究会開催報告・・・21
2022 年度研究会開催スケジュール・・・5	研究会報告年間購読案内・・・23
第1回研究会開催案内・・・6	支部活動報告・・・24
科研費申請支援制度のご案内・・・8	北信越支部, 関西支部, 四国支部
2023 年度発刊 特集号論文募集・・・10	広報からのお知らせ・・・28
「博士論文紹介」原稿募集・・・12	協賛・後援イベントのお知らせ・・・29
合同英文誌 ITEL 論文募集・・・13	国際会議のご案内・・・30
「ラーニングイノベーショングランプリ 2022」応募受付開始・・・14	会費納入のお願い・・・31
2021 年度学生研究発表会開催報告 ・優秀賞のお知らせ・・・16	事務局より・・・33
第6回研究会開催報告・・・19	会員専用ページの案内, 入会のご案内, 新入会員のご紹介





第 47 回 JSiSE 全国大会のご案内

担当者： 全国大会委員会

テーマ：ニューノーマル時代のインクルーシブ教育を支える教育・学習支援技術

<https://taikai2022.jsise.org/>

- 開催日時： 2022 年 8 月 24 日(水) ～ 8 月 26 日(金)
- 会 場： 新潟工科大学 / オンライン (ハイブリッド開催)
*変更の可能性あり
- 主 催： 一般社団法人教育システム情報学会

■ 全国大会の実施方法について

第 47 回全国大会は、対面・オンラインのハイブリッドで実施できるように調整を進めております。ハイブリッドの導入に伴い、大会のプログラムが例年とは異なる構成になっておりますので、ご注意ください。詳細な実施方法につきましては、決まり次第アナウンスいたします。

なお、今後のコロナウイルスの感染拡大に応じて、すべてオンラインに変更する可能性もありますのでご注意ください。

■ 大会日程 (予定)

8 月 24 日 (水)	
午前	プレカンファレンス
午後	オープニング(会長・開催校挨拶), 各種表彰, 特別講演, メインイベント
8 月 25 日 (木)	
午前	インタラクティブセッション・学生研究特別セッション
午後	一般・企画セッション
8 月 26 日 (金)	
午前	一般・企画セッション
午後	一般・企画セッション, クロージング

(*) 大会日程は変更される可能性があります。

■ 交通アクセスについて

<https://www.niit.ac.jp/outline/basic/access/>

<JR 柏崎駅まで>

- JR 東京駅～JR 長岡駅まで上越新幹線で 100 分
- JR 長岡駅～JR 柏崎駅まで信越本線特急で 25 分，普通電車で 40 分

<JR 柏崎駅から新潟工科大学まで>

- 車で 10 分
- 路線バス
 - JR 柏崎駅 南口 「柏崎駅南口～産業大～安田駅前線」 所要時間 15 分 工科大構内下車
 - JR 柏崎駅前 「久米線」 所要時間 20 分 工科大入口下車

■ 大会までのスケジュール

原稿修正締切の後に，参加申込が開始されます。発表者には，参加申込の開始時にメールでご連絡いたします。本年は講演申込と投稿締切が同日となっております。また，投稿締切後，原稿修正期間が設けられています。例年と異なりますのでご注意ください。

- 2022 年 4 月 7 日(木) 講演申込・投稿開始
- 2022 年 5 月 25 日(水) 講演申込・投稿締切
- 2022 年 6 月 1 日(水) 原稿修正締切
- 2022 年 6 月 2 日(木) 参加申込開始
- 2022 年 6 月 30 日(木) [発表者] 参加申込締切
- 2022 年 7 月 26 日(火) [発表者以外] 参加申込締切(郵便振替・コンビニ決済)
- 2022 年 8 月 5 日(金) 参加費納入締切(郵便振替・コンビニ決済)
- 2022 年 8 月 8 日(月) [発表者以外] 参加申込締切(クレジットカード)

■ プログラム

プログラムは変更される可能性があります。最新の状況は大会 Web サイトに掲載いたします。

- 企画セッション
 1. エージェンシー育成のための社会情動的スキルに関する研究
 2. 教育 DX を支える LA (Learning Analytics) の多面的検討
 3. ニューノーマル時代における先進的な学習状態推定と学習体験創出
 4. データサイエンス教育における授業設計
 5. 近未来の医療者教育
 6. 教育 DX と実世界指向学習環境
 7. 「答えのない課題の解決に挑む学び」を支える教育システム・デザイン

■ 講演論文集について

第 45 回大会より CD-ROM での配布を廃止し、Web による配布のみとしております。Web 版の講演論文集は、2022 年 8 月 15 日(月)に大会参加者のみに公開され、2023 年 3 月 1 日(火)に一般公開されます。

■ 企業展示・広告の募集

企業展示・広告を募集いたします。お申し込み先など、詳細は大会 Web サイトでお知らせいたします。

■ 協賛金のお願い

大会運営のための諸費用として使用させていただく協賛金を募集しております。ご協力賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。詳細は大会 Web サイトでお知らせいたします。

■ 大会事務局

〒162-0801 東京都新宿区山吹町 358-5 アカデミーセンター

一般社団法人 教育システム情報学会 全国大会委員会

E-mail : jsise-desk@bunken.co.jp



2022 年度研究会開催スケジュール

担当者： 研究会委員会

2022 年度の年間スケジュールは下記の通りです。

詳細は、学会ウェブページ (<https://www.jsise.org/society/committee.html>) をご覧ください。

回	テーマ	開催日	会場	申込締切	原稿締切
第 1 回	DX 時代に向けた学習環境 の変革／ヘルスケア分野 の DX 人材育成／一般	2022 年 5 月 14 日(土)	オンライン開 催, または早稲 田大学 (早稲田 キャンパス) と オンラインのハイ ブリッド開催	終了	2022 年 4 月 13 日(水)
第 2 回	ICT を活用した学習支援 と教育の質保証／一般	2022 年 7 月 16 日(土)	北星学園大学 (札幌市)	2022 年 5 月 26 日(木)	2022 年 6 月 16 日(木)
第 3 回	対面・オンライン・ハイ ブリッド授業支援／一般	2022 年 9 月 23 日(金) もしくは 30 日(金)	オンライン開催	2022 年 8 月 4 日(木)	2022 年 8 月 25 日(木)
第 4 回	スキル開発とその支援技 術／一般	2022 年 11 月(予定)	徳島大学	未定	未定
第 5 回	教育 DX と実世界指向学習 環境／一般	2023 年 1 月(予定)	拓殖大学(文京 キャンパス)	未定	未定
第 6 回	学校段階間での接続を意 識したデータサイエンス 教育／一般	2023 年 3 月(予定)	北九州市立大学	未定	未定
特集	未定	2023 年 3 月(予定)	北九州市立大学	未定	未定

研究会全般に関するお問い合わせは、学会事務局までお願いいたします。



2022 年度 第 1 回研究会 開催案内

担当者： 加藤泰久，仲林清，真嶋由貴恵，松居辰則，森本容介（研究会委員会）

■テーマ

DX 時代に向けた学習環境の変革／ヘルスケア分野の DX 人材育成／一般
※学習分析学会と合同で開催します。

■開催日時

2022 年 5 月 14 日（土）

■開催場所

オンライン開催，または早稲田大学（早稲田キャンパス）とオンラインのハイブリッド開催

■趣旨

2022 年度第 1 回研究会は，「DX 時代に向けた学習環境の変革／ヘルスケア分野の DX 人材育成／一般」のテーマで実施いたします。

DX（デジタルトランスフォーメーション：Digital Transformation）とは，経済産業省によると「企業がビジネス環境の激しい変化に対応し，データとデジタル技術を活用して，顧客や社会のニーズを基に，製品やサービス，ビジネスモデルを変革するとともに，業務そのものや，組織，プロセス，企業文化・風土を変革し，競争上の優位性を確立すること。」とされています。

教育や学習においても DX は今後の重要な課題となります。DX とは ICT の利活用をさらに高度化し，データ・技術・人間が共生して新たな価値を創出することが本質です。そこで，この研究会では教育や学習における DX について多面的に議論したいと考えております。特に，新しい技術利用という観点にとどまらず，「どのような新しい価値（教育効果，行動変容，持続可能性等）が創出されるか」という観点を重視した研究や実践報告を期待致します。

「DX 時代に向けた学習環境の変革」に関しては，DX 時代に向けた大学や企業における人材開発や組織マネジメントとの連携，学習コンテンツ設計，インストラクショナルデザイン，品質評価，学習者支援，ブレンデッドラーニング，インフォーマルラーニングなどの方法論，e ラーニングツール，システム，実践環境やモデルに関する提案・開発・応用など幅広いトピックに関するご発表を募集いたします。さらに，教育における DX は学習データの活用が重要な課題となります。学習データの収集・分析・可視化に関する理論・技術・実践に関する幅広い発表を募集し，実効性の高い学習データの分析と利活用の可能性や課題についても議論したいと思います。

「ヘルスケア分野の DX 人材育成」に関しては，マルチメディアを活用した e ラーニングが多くの医療系大学や病院などに導入され，ICT を活用して膨大な知識の効率的な学習，新しい知識の定着，医療・看護技術の習得などで，高い学習効果が得られたことが報告されています。本研究会では，へ

ルスクエア分野において求められている高い実践能力をもつ人材の育成やナレッジマネジメント、学習者支援、学習コンテンツの設計、インストラクショナルデザイン、医療シミュレーション教材の開発や実践、医療サービスの質保証ならびに質評価、eラーニング教材制作、臨床や教育機関での実践・運営環境、著作権処理に関する様々なトピックを扱い、この分野における専門職教育に必要な知識や技能を習得するための ICT 活用教育方法、さらにはこの分野における DX 人材について議論を進めていきたいと思えます。

その他、教育システムに関する幅広い分野からの発表も歓迎致します。初中等教育、高等教育、企業教育などの分野から、多くの方々の発表をお待ちしております。

■発表時間

通常の発表（原稿あり）は 25 分（発表 17 分、質疑 7 分、入れ替え 1 分）を、原稿なし発表は 15 分（発表、質疑、意見交換等を自由にアレンジ）を予定しております。

■研究会への参加方法：

研究発表および研究会参加には、研究報告の年間購読（4,000 円／年）または各回の研究報告の購入（1,000 円／回）が必要となります。ただし、聴講のみを希望する学生会員は研究報告を購入する必要はありません。

Zoom 開催の場合のアクセス先は、参加申込時に送信されるメールに記載されます。

○発表者

原稿提出は、研究会のページ (<https://www.jsise.org/society/committee.html> で 2022 年度第 1 回のページを選択) の「申込者ログイン」よりお願いします。

また、事前参加申込（研究報告の購入）は 2022 年 4 月 14 日 9 時に開始します。

開始時刻以降に、「申込者ログイン」から手続きしてください。

○聴講のみを希望する学生会員

聴講のみを希望する学生会員は、「申込者ログイン」での手続きは行わず、下記の問い合わせ先まで直接メールでご連絡ください。

○上記以外の参加者

事前参加申込（研究報告の購入）は 2022 年 4 月 14 日 9 時に開始します。

開始時刻以降に、研究会のページ (<https://www.jsise.org/society/committee.html> で 2022 年度第 1 回のページを選択) の「申込者ログイン」から手続きしてください。

■お問い合わせ先

松居辰則（早稲田大学、第 1 回研究会担当委員）

E-mail : matsui-t [at] waseda.jp ([at]の部分を、「@」に変えて下さい.)



科研費申請支援制度（2022 年度春期）のご案内

担当： JSiSE 人材育成委員会

教育システム情報学会では、次代を担う若手研究者の自立、研究活動の活性化を積極的に支援することを主旨として、科研費申請支援制度を試行します。本学会の理事等を中心に、当該分野の科研費審査や獲得経験を有する複数のシニア研究者（匿名）が、提出された申請書に対して、主張点や論旨の明確化、焦点化など、審査員に上手に伝えアピールする視点から、採択に向けたコメントを書面で提供するものです。申請書評価の多様な見方に触れて頂くためにも、学会としてまとめることはせずコメントータからのコメントをそのまま提供します。これらを参考材料として申請者ご自身の判断の下で取捨選択しての申請書のブラッシュアップに役立てて頂く主旨のものです。学会およびコメント提供者は申請内容について守秘義務を負うものとします。なお学会およびコメント提供者は採択に関する責任を負うことはできませんので、予めご承知おきください。

本制度は若手研究・基盤研究（C）および研究活動スタート支援を支援対象とします。主として以下の分野を対象にしますが、JSiSE が学際的な領域を対象にしていることから、他の分野でもできるだけ柔軟にお受けしたいと考えていますので、下記問い合わせ先までご相談ください。

- ・ 支援種目：

- ・ 研究活動スタート支援（春期募集）
- ・ 若手研究（夏季募集）
- ・ 基盤研究（C）（夏季募集）（ただし、若手研究の応募資格を有する方に限る※）

※令和3年度公募より若手研究の応募資格が変更されています。

詳しくは学術振興会Webサイト等をご参照ください。

https://www.jsps.go.jp/j-grantsinaid/06_jsps_info/g_210709_2/data/siryu2.pdf

- ・ 分野：

- ・ 「大区分A」「中区分9：教育学およびその関連分野」
 - ・ 09070 教育工学関連
 - ・ 09080 科学教育関連
- ・ 「大区分J」「中区分62：応用情報学およびその関連分野」
 - ・ 62030 学習支援システム関連

- ・ 申請者は学会員であることが必要です。

スケジュールは以下の通りです。ご所属機関により提出時期が異なることを踏まえ、提出期間に幅を持たせています。

【春期募集スケジュール】

○エントリー

研究活動スタート支援：受付中

下記提出先まで電子メールにて、 代表者氏名(所属)・タイトル・応募種目・分野(大区分, 小区分)をお知らせください.

サブジェクトは「JSiSE 科研費申請支援」を含む文字列でお願いします.

※エントリーがなくても申請は随時受付いたしますが, 事前にエントリー頂ければメンターに書類を迅速にお送りできますので, 結果の返送も早くなります.

※若手研究, 基盤研究 (C) は夏季募集を予定しています.

○申請書提出

研究活動スタート支援：申請者所属機関の申請書類締め切りの約2週間前まで

申請書のファイル (MS-Word または PDF 形式) を下記提出先までお送りください (予算明細などの詳細まで埋めていただく必要はありませんが, よりよいコメントを提供するために, ある程度内容が固まってからご提出いただくのが望ましいと思われまます). 提出いただき次第, コメントータに申請書を送付します.

○コメントのお返し

【各メンターから提出があり次第, 随時コメントをお返します.】

事前エントリーがあった場合申請書提出から1週間前後, ない場合10日前後の返信を予定しておりますが, 事情により遅れる可能性もございますので余裕をもってお申込みください.

エントリー, 申請書提出およびお問い合わせ先

JSiSE 人材育成委員会 (jsise-y-support@googlegroups.com)



2023 年度発刊 特集号論文募集

担当者： 学会誌編集委員会委員長 瀬田 和久（大阪府立大学）

「次世代の人材を育成するために変革する教育システム」

論文投稿締切：2022年6月1日(水)（予定）

2023年4月1日 発行（予定）

COVID-19の影響により、各高等教育機関でのオンライン授業、BYODが広く展開されるなどデジタル技術の活用が促進され、新たなカリキュラムや学習のあり方、学習環境の革新に向けて、教育手法が一層多様化していく中で、そうした時代に対応すべく教育DX(デジタル・トランスフォーメーション)が謳われています。ポストコロナを見据えた「Society 5.0」では、サイバー空間とフィジカル空間を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する人間中心の社会が提唱されています。そうした社会システムの実現に向けて、数理的推論やデータ分析力を含むリテラシーや、論理的思考力、規範的判断力をベースに社会システムを構想・設計する力を持つ人材が求められています。また、現在、大学入学共通テストへの「情報」の出題が検討される中、専門分野を問わず、誰でも数理・データサイエンス、AI活用の素養を身につけられる教育システムが必要となっています。本特集号では、このような状況下での次世代の人材を育成するために変革する教育システムにフォーカスします。

1. 対象分野

Society5.0の実現のためにベースとなるSDGsでは、地球規模の課題解決に取り組み、社会に貢献できる人材を育てることが社会的使命となっています。農業・工業・医療等、あらゆる幅広い分野において、レジリエントな社会の実現に向けた価値観を育むDX(デジタル・トランスフォーメーション)が期待されます。今後のSociety5.0の発展を見据え、初等・中等から高等教育機関におけるAI教育、情報教育等に加え、リカレント教育も含めた社会の教育発展に寄与する先行的な取り組みに注目します。情報教育（デジタルリテラシー教育、IoTを利活用したサービスデザインの教育、教育の枠組み設計等）、また、地域活性化に向けた産学連携・産学官連携も含めた人材育成支援の取り組み等に関する発表を広く募集いたします。

2. 論文種別

すべての種別(一般論文、実践論文、ショートノート、実践速報)の論文を募集いたします。なお、査読を通して、異なる種別での採録となる場合があります。また、内容により一般号掲載論文へ変更する場合があります。

3. 投稿要領

教育システム情報学会学会誌原稿執筆要領に準じます。詳細は教育システム情報学会の Web ページで確認してください。Web 投稿の際には、以下の点にご注意ください。

- 「投稿種別」で「特集号」を必ず選択してください。
- 特集論文研究会(2022年3月22日(火))で発表を行った方は、投稿情報入力の際に「事務局への連絡事項」の欄に、特集論文研究会での発表題目と発表番号を記載してください。

4. スケジュール

論文投稿締切： 2022年6月1日(水) (予定)
採録通知予定： 2022年12月初旬まで(予定)
学会誌 掲載： 学会誌Vol. 40, No. 2, 2023年4月1日発行

5. 特集号編集委員会

委員長： 瀬田 和久(大阪府立大学)
副委員長： 村上 正行(大阪大学)
筆頭幹事： 後藤田 中(香川大学)
幹事： 高木正則(岩手県立大学)， 田中孝治(金沢工業大学)，
山崎 治(千葉工業大学)
幹事補佐： 近藤 伸彦(東京都立大学)， 津森伸一(聖隷クリストファー大学)，
山元 翔(近畿大学)
委員： 学会誌編集委員

6. 問い合わせ

全般： 後藤田 中(香川大学) E-mail: gotoda.naka@kagawa-u.ac.jp
Web投稿： 編集事務局 電話： 03-5389-6492 E-mail: jsise-edit@bunken.co.jp
〒169-0075 東京都新宿区高田馬場4-4-19
株式会社国際文献社 長澤氏・山田氏・祁氏



「博士論文紹介」の原稿募集について

担当者： 学会誌編集委員会委員長 瀬田 和久（大阪府立大学）

学会誌のコミュニティプラザ「博士論文紹介」は2021年より、各巻のNo. 3（7月1日発行）に集約をし、博士論文の紹介を総覧できる形式へ移行しました。複数の博士号取得者を一同に紹介することで「博士号取得者の研究テーマの動向を読者の皆様が一目で把握できる」「博士取得者同士が互いを知る機会として、交流を深めるきっかけとなる」などのメリットがうまれることを期待しております。

年1回に集約したことにより、寄稿依頼を年度末前後の3～4月頃とし、本誌や学会のニューズレターなどを通じて、募集を行っております。2022年7月1日発行予定となります学会誌Vol. 39, No. 3につきましては、【2022年4月22日（金）】を原稿締切とし、募集を行っております。お近くに博士号取得者や、今後学会誌掲載時に博士号取得予定者がいらっしゃいましたら、ご本人または、指導教員の立場によらず、お声掛けいただけますと幸いです。

また今回より、博士論文紹介原稿用の執筆要領&原稿テンプレートを新たに作成し、原稿および必要事項の提出に関しましても、Google フォームを用いて行うようにいたします。下記 URL よりご利用ください。

スケジュール

原稿締切： 2022年4月22日（金）

学会誌掲載： 学会誌Vol. 39, No. 3, 2022年7月1日発行

執筆要領および原稿提出

執筆要領&原稿テンプレート：

<https://drive.google.com/uc?export=download&id=1ZQLwCvdBb0RF7YCtxiBLk3rinKqe7Qsc>

原稿提出（Googleフォーム）：

<https://forms.gle/bjSbqUr8o4p646349>

問い合わせ等

問い合わせ先：教育システム情報学会誌編集委員会

E-mail: editors-ml@jsise.org

（「@」の部分は、半角の「@」に変えて下さい）

担当委員：山崎 治（千葉工業大学）

E-mail: yamazaki@net.it-chiba.ac.jp

（「@」の部分は、半角の「@」に変えて下さい）



Information and Technology in Education and Learning (ITEL)

論文募集 [<https://www.j-itel.org>]

日本教育工学会 (JSET) との合同英文誌 ITEL (Information and Technology in Education and Learning, <https://www.j-itel.org>) Vol.2 への掲載原稿を募集しています。この ITEL では、我が国における教育工学・教育システム情報学の国際的な発信力を強化するとともに、国際的な共同研究・研究交流のプラットフォームになることを目指しています。ITEL は、J-STAGE をプラットフォームとしたオープンアクセスジャーナルです。研究対象は、教育システム情報に関連した領域全般はもちろん、様々な教授学習場面のための方法・技術に関する基礎研究・開発研究・実践研究等も含まれます。投稿後、原則、7 か月以内に 2 回の査読が終了するように配慮しています。短期間で、革新的な研究成果、ユニークな実践等を世界に向けて発信するために活用していただければ幸いです。学位取得を目指されている方や留学生のみなさんからのご投稿もお待ちしております。

- 論文種別： 一般論文 (Regular Paper, 基本 8 ページ) ,
実践論文 (Practice Paper, 基本 8 ページ) ,
システム開発論文 (Development Paper, 基本 8 ページ) ,
ショート論文 (Short Paper, 基本 4 ページで最長 6 ページまで)
<これまでのショートノート (Short Note) と実践速報 (Report on Practice) を含みます>
- 投稿締切：1 年中投稿を受け付けています。
- 投稿要件：
 - 論文は他学会において査読中でないこと、そして、その主要部分が未発表であること。ただし、国際会議、学会の大会、研究会等で口頭発表した内容をまとめたものは投稿することができます。
 - 投稿者は本会会員である必要はありませんが、本会会員あるいは JSET 会員である場合には掲載料に会員の価格が適用されます。投稿者が 2 名以上の連名の場合は、そのうち少なくとも 1 名が会員であれば、掲載料に会員価格が適用されます。
- 原稿執筆要領：ITEL Web サイトに、執筆要領 (Author Guidelines) 等がアップされています。
- 投稿方法：< [ITEL 電子投稿システム] https://iap-jp.org/j-itel/journal_e/ >
 - ITEL Web サイト上から、電子投稿システムにログインして投稿を行って下さい。
 - 初めて電子投稿システムを利用する場合は、まず利用者用 ID の発行手続きを行って下さい。
 - 投稿論文は論文執筆用テンプレートファイルを用いて PDF ファイルに出力して提出して下さい。
 - 投稿論文は、投稿前にできるだけ英文校正 (Proofreading) を受け、証明書提出を推奨しています。
- 査読方法：
 - 投稿論文の査読は、JSiSE 英文誌と同様に、シングルブラインド制で行われます。
 - 査読者は 2 名で、査読回数は 2 回となります (著者照会は 1 回のみ)。
 - 評価項目は、Originality (新規性)、Usefulness (有用性)、Reliability (信頼性)、Presentation (明瞭性) の 4 項目となり、JSiSE 英文誌と異なり、査読中に投稿論文の種別変更はありません。
 - 投稿者の希望に基づき、JSiSE 英文誌と同様、日本語で査読コメントを受けることもできます。



「ラーニングイノベーショングランプリ 2022」応募受付開始

教育システム情報学会 産学連携委員会 委員長 松浦 健二

JSiSE が 2016 年度より共催している産学連携イベントであるラーニングイノベーショングランプリが今年度も開催されます。2020 年度はコロナ禍のために開催中止となりましたが、2021 年度はオンライン形式にて再開、2022 年度はグランプリの受賞者プレゼンテーションと表彰式が、2022 年 7 月 13 日～15 日に東京国際フォーラムで開催される展示会「ラーニングイノベーション 2022」（主催：日経新聞社、日経 BP、共催：日本イーラーニングコンソシアム、ラーニングイノベーションコンソシアム）の中でおこなわれる予定です。

本グランプリは、教育や人材育成に関わる企業と、革新的な学習・教育環境を研究している高等教育機関のマッチング機会を拓けるものです。昨今、企業内教育においてはデジタル化の急速な進展を背景にラーニングテクノロジーに注目が集まり、今後は学術発の知見に対する産業界の期待も高まることが予想されます。こうしたなかで、本グランプリは産学のブリッジ役として、新たな枠組みを目指すものです。

【募集ジャンル】

ラーニングイノベーショングランプリでは、テクノロジー分野だけでなく教育実践や教授法も含めた新たな学習・教育環境の研究内容を広く募集します。

キーワード：AR, VR, IoT, AI, ディープラーニング, デバイス, プラットフォーム, 教育ビッグデータ, ラーニングアナリティクス, コンテンツ, 教育実践, 教授法, 教育分野におけるシステムの利活用, メタ認知, SRL/SDL など

ラーニングイノベーショングランプリでは、学生だけでなく若手研究者からの応募も受け付けます。但し、学生または若手研究者を主とする研究室での研究に焦点をあてた企画のため、学生と若手研究者を最低各 1 名、あるいは若手研究者単独がチームの最小構成となります。研究成果を論文評価とは異なる目で見ただけの機会であり、産業界からのフィードバックを得られる機会です。是非ご応募をご検討ください。

【スケジュール】

- 3 月 16 日（水）：応募受付開始
- 5 月 16 日（月）：応募受付締め切り（午前 12:00 締切り）
- 6 月 1 日（水）：一次審査結果発表
- 6 月 1 日（水）～6 月 20 日（月）：動画制作期間
- 7 月 1 日（金）：審査結果発表
- 7 月 13 日（水）：受賞者プレゼンテーション、表彰式
（「ラーニングイノベーション 2022」にて）

【公式サイト】

<https://ligp.gingerapp.co.jp/>

★これまでに受賞された研究がアーカイブス (<https://ligp.gingerapp.co.jp/archives/>) としてまとめられております。紹介動画もございますので、是非ご覧ください。

【運営体制】

主催：ラーニングイノベーションコンソシアム (LIC)

共催：教育システム情報学会 (JSiSE)，日本イーラーニングコンソシアム (eLC)

協賛：日本情報科教育学会，日本教育工学会，人工知能学会，情報処理学会 CLE 研究会，
学習分析学会，電子情報通信学会教育工学研究会

協力：日経 BP，ジンジャーアップ (公式サイト)

運営：ラーニングイノベーショングランプリ実行委員会

プラチナスポンサー：ジンジャーアップ

ゴールドスポンサー：サイコムブレインズ，デジタル・ナレッジ，WARK

ネーミングライツスポンサー：Moodle Pty Ltd/イーラーニング，ユームテクノロジージャパン

【実行委員】

川口 泰司 : LIC/サイコム・ブレインズ株式会社 ※実行委員長

加藤 憲治 : LIC/日本イーラーニングコンソシアム

前田 宏 : LIC/株式会社ジンジャーアップ

越智 洋司 : JSiSE/近畿大学

東本 崇仁 : JSiSE/東京工芸大学

米谷 雄介 : JSiSE/香川大学



2021 年度学生研究発表会開催報告・優秀賞のお知らせ

担当者： 人材育成委員会

2021 年度 JSiSE 学生研究発表会は、2022 年 2 月末から 3 月初旬にかけて、北海道、北信越、関東、東海、関西、中国、四国、九州・沖縄の地区で、各支部主催により、オンラインで開催されました。発表総件数は 119 件、来場者数は 288 名と、各会場とも盛況な研究発表会となりました。各地区の優秀な発表については、優秀発表賞、優秀ポスター発表賞として選定されています。

各地区の学生研究発表会の参加者数および発表者数、ならびに受賞リストは以下の通りです。

学生研究発表会開催状況

地区	地区担当者	開催日	発表件数	参加者数
北海道	山本 裕一（北海道大学）	2022 年 3 月 3 日（木）	10	26
北信越	森 祥寛（金沢大学）	2022 年 3 月 6 日（日）	10	22
関東	辻 靖彦（放送大学） 山本 樹（明海大学）	2022 年 3 月 1 日（火）	17	52
東海	星野雪子（名古屋産業大学）	2022 年 2 月 28 日（月）	8	27
関西	河野 稔（兵庫大学）	2022 年 3 月 1 日（火）	9 15（ポスター）	67
中国	岩根典之（広島市立大学）	2022 年 2 月 26 日（土）	23	44
四国	米谷 雄介（香川大学）	2022 年 3 月 7 日（月）	14	24
九州・ 沖縄	浅羽修丈（北九州市立大学） 小渡 悟（沖縄国際大学）	2022 年 3 月 8 日（火）	13	26

優秀発表賞・優秀ポスター発表賞

地区	受賞者氏名	受賞者所属	タイトル
北海道	大津千莉	釧路工業高等専門学校	UML に基づいたビジュアルプログラミング型機器制御教材の開発
	大塚ひまわり	武蔵野大学	画像領域に対する検索者の着目意図を反映した色彩・印象特徴による画像検索方式
北信越	千野匠	信州大学	3 軸加速度センサによる計測データに基づくスラックライン動作の上達指標に関する基礎的検討
	杉井奏斗	信州大学	ドローイング作品に含まれるストロークの質的評価に基づく成長指標に関する基礎的検討

関東	林真由	電気通信大学	評価者特性の時間変動を考慮した項目反応モデル
	千葉壮一郎	早稲田大学	計算課題解答時におけるフロー状態と解答の入力環境の関係に関する定量的分析
	曾我百華	電気通信大学	セルフレビュー支援を目的としたプレゼンテーション再体験手法
	梅津寛香	電気通信大学	スライドマップ構築支援とその評価
東海	山川 智也	静岡大学	英単語並べ替え問題に解答する際に発生する迷いを用いた Learning Analytics の試み
	藤本 和侖	名古屋大学大学院	数学オンラインテストの解答のペンストロークデータの可視化と解析
関西	平田 伊吹	龍谷大学	LINE 上で操作を行うペアワークシステムの開発
	岡本 花奈乃	大阪府立大学	意味記憶と想起による記憶定着支援システム
	松浦 碧	大阪府立大学	Physical Walk と Concept Walk を実現する VR 型史跡探索学習支援システム
	北中 美帆	大阪工業大学	グラフィックレコーディング支援アプリケーションの開発 (*)
	高岡 棕雅	和歌山大学	GAN による簡略デザインを詳細デザインに変換する建物デザイン支援システム (*)
	今井 大智	大阪府立大学	ゲーミフィケーションを用いたメンタルヘルス不調予防のための行動変容システムの考案 (*)
中国	鈴木一郎	広島市立大学大学院	VR を用いた地震災害体験システムの開発
	岡本拓土	広島市立大学大学院	非接触型デバイスを用いたイオン化傾向の体験学習支援
	熊崎智章	広島市立大学	ピアノ鍵盤に基づいたコードの理解を深めるタブレット型学習支援システム
	西尾俊紀	広島市立大学	デジタル教科書のログと演習の成果物に基づくペアリング手法
	谷山明日希	広島工業大学	多言語のプログラミング学習支援システムの開発
四国	川人俊介	高知大学	研究授業レビュー支援システムにおける電子化学習指導案の作成・表示ツールの開発
	福本考生	大阪工業大学	VR を用いた避難体験アプリケーションの開発と避難体験者の避難行動分析
	山田健斗	徳島大学	ドライブシミュレータ画面の領域分割を用いた視線学習支援

九州・ 沖縄	宮副航輔	佐賀大学工学部	仮想通貨で質疑応答を評価する匿名質問掲示板の開発
	社領一樹	沖縄工業高等専門学校	Twitter におけるアイコンの色彩的特徴と投稿の感情極性の関連分析
	米田圭	沖縄国際大学	IoT を活用した家庭用水耕栽培装置の開発

*優秀ポスター発表賞



2021 年度 第 6 回研究会 開催報告

担当者： 尾崎拓郎（大阪教育大学）、浅羽修丈（北九州市立大学）、鷹岡亮（山口大学）、
永田奈央美（静岡産業大学）、西端律子（畿央大学）、
長谷川理（武蔵野大学）、山本樹（明海大学）、

■ テーマ：Society 5.0 に対応したデータサイエンス教育の実践

■ 開催日時：2022 年 3 月 21 日（月）

■ 会場：オンライン開催

■ 概要：

第 6 回研究会は、2022 年 3 月 21 日にオンライン（Zoom）で開催しました。内閣府が提示している「AI 戦略 2019」に掲げられた 2025 年までの各教育機関での教育目標を踏まえ、「Society 5.0 に対応したデータサイエンス教育の実践」をテーマとし開催しました。このテーマに関する研究発表が数多く報告されましたが、それに加えて、「学習支援システム」、「ハイブリット型授業」、「学習コンテンツ」、「スキル学習」をキーワードとするさまざまな研究発表がありました。オンラインにもかかわらず、参加者は 67 名、発表件数は 27 件と多くの方にご参加いただきました。各セッションでは聴講されている方からの質問も多くあり、闊達な議論が行われました。これも参加された皆様のお陰です。当日のご発表・ご参加いただきました。深く感謝申し上げます。

■ 研究発表タイトル

- スポーツスキル学習における概念知習得のための問題演習支援
- 手本動作とのずれを触覚フィードバックで提示する左右反転動作の学習支援環境
- 意思決定における自己の探索空間と評価の認知の支援システムの開発と評価
- Web 調べ学習における適応的な目次構造作成支援の評価
- キャリア教育における大学生のコミュニケーションスキル向上トレーニングの提案—テキストチャットアプリによるトレーニング効果の検証—
- ICT を活用した協働構築型キャリア支援専門人材育成プログラムの効果と課題
- 外国語学習用デジタル教科書・教材を用いたクラス運営を支援する学習ガイド機能の実装
- 医療系大学におけるデザイン思考を取り入れた異学年間プログラミング教育の実施
- 教師の負荷軽減のためのプログラム自動部分採点システムと解答状況分析システムの開発
- 教育におけるコンテンツ利用プログラミング —スクラッチプログラミングにおける画像や動画の利用—

- 医療系大学における数理データサイエンス AI 教育（リテラシーレベルプラス）の実践と検証
- 薬学系・医療系大学初年次の AI リテラシー教育の実践と学習モチベーション分析
- ロジカルシンキング演習科目における対面授業とオンライン授業の比較検証
- 力学概念調査（FCI）による授業評価
- 児童生徒の合唱活動に対する意識の分析
- オンライン・プレ・バズセッションのコアモジュールを用いた発散思考の試行
- 受講者からのフィードバックをリアルタイムに収集・共有するツールを用いたオンライン授業の効果に関する分析
- コロナ禍におけるオンライン授業と対面授業の並行実施に関する学生自由意見のテキストマイニングによる分析
- カードゲームを用いた援助要請スキル育成の試み
- 社会情動的スキル向上プログラムにおける学習者特性による効果の違い
- 大学生のオンライン授業によるドライアイを予防する瞬き促進ツールの開発と評価
- 1人1台端末が普及した後の小中学生と教員の認識—小中学生の情報活用能力と教員の教授・学習観に着目して—
- 知見マップ構築を目的としたプログラミング教育実践の調査 —教科・対象・教材による考察—
- ロボットへのプログラミング学習を通じた認知症教育の取り組みとその評価 —ハイブリッド型演習を試みて—
- 大学生の自己肯定感向上を目的としたLINE チャットボットの開発と評価
- 授業支援システム（LMS）のアクセシビリティ検証——LMSを改善するための研究①
- 初等中等教育の採点支援システムに対する個別学習者の理解状況を把握する機能の開発についての検討



2021 年度 特集論文研究会 開催報告

担当者： 学会誌編集委員会幹事 後藤田 中（香川大学）

- テーマ： 次世代の人材を育成するために変革する教育システム
- 開催日： 2022年3月22日（火）
- 会場： オンライン（Zoom）
- 発表件数： 16件（閲読希望：12件）
- 参加申込者数：57名

■ 概要：

特集論文研究会では、昨年度からより良い閲読コメントをお渡しできるように、当日の発表内容を録画させていただき閲読させていただくことになりました。

1) 閲読コメント担当者は、1編に対して2名

① 閲読者に事前に論文を送付

② 閲読者は当日の発表あるいは録画映像を踏まえて閲読コメントを作成

2) 閲読コメントは2022年4月10日（日）までに送付

■ 当日の会場運営に関する報告：

昨年度に続き、第6回研究会と特集論文研究会は同日開催ではなく、今年度も連日開催となりました。本研究会は、オンラインで実施し、Zoomのブレイクアウトルーム機能を利用してA・B会場2会場をブレイクアウトルームで用意しました。各会場を午前1セッション、午後2セッションで合計、6セッションの開催となり、例年に比べて、発表件数や参加者はやや落ち着いた数字となりましたが、盛況となりました。なお、途中、SINET6の全国的な回線障害が研究会実施中に発生し、一部中断したセッションもありましたが、座長の先生による柔軟な判断や、運営のご支援を頂いている第6回研究会委員の先生方の対応により、その後継続され、大きな支障はなく終えることができました。ご協力感謝いたします。

■ 編集委員会からの報告と関連企画のご案内：

新型コロナウイルス影響により、引き続き、感染予防のため、参加者のみなさまの健康と安全を最優先にオンライン開催となりました。6つのセッションの座長には、有意義な議論を導いてくださいました。審査委員には、各担当の発表にて受賞選定の評価をいただきました。閲読委員の皆さまには、当日、事後も含めて、原稿や映像を丁寧に読み込み、閲読コメント作成に尽力いただき感謝しております。

本特集論文研究会は、論文特集号との連動企画です。学会誌特集論文の案内を学会 Web サイト (https://www.jsise.org/journal/cfp2022_offer.html) にて掲載しますので詳細はそちらをご確認ください。本研究で未発表の研究内容もご投稿可能ですので、皆様のご投稿を心よりお待ちしております。

■ 会場世話人：後藤田 中（香川大学）からの御礼：

2年連続して会場世話人を担当し、会場準備は香川大学が主体的にあたりました。3月は研究成果の報告の場として、第6回研究会と同じく、本研究会も、多くご参加いただいております。研究会委員会のご支援により、研究報告やZoom会議URLの配布については、参加者への負荷なく行えたこと世話人としても大変感謝しております。「来年こそは」と、対面で研究会を実施できる日を楽しみにしております。今後とも是非3月に開催されます特集論文研究会に第6回研究会とあわせてご参加ください。



研究会報告年間購読の申し込みについて

研究報告は、2016年度からは印刷媒体での研究報告は廃止し、オンライン上でタイムリーかつオンデマンドな閲覧が可能となるように、研究報告を電子化しています。保管などの手間もなく、大変便利に活用できるようになっております。

是非、研究会報告の「年間購読」のお申し込みをご検討いただければ幸いです。研究会当日も電子媒体として販売する予定ですが、年間購読がお得になっております。

- ・年間購読:4,000円(定例研究会年6回、特集研究会1回、計7回分を含む)
- ・当日販売:1冊1,000円

新規での「年間購読」申込みにつきましては、年会費をお支払いいただく前に会員種別変更申込をお願いします。以下の手順でお申し込みください。すでに年間購読をしていた方は手続き不要です。

- 1) 年会費納入手続きの前に、下記フォームにて事務局 (secretariat@jsise.org) まで年間購読申込をしてください。

=====

※研究報告年間購読希望

会員番号 (お分かりであれば) :

お名前 :

所属 :

連絡先 e メールアドレス :

=====

- 2) 手続き終了後、事務局より会員種別変更完了のご連絡を差し上げます。
- 3) マイページから年会費と合わせて年間購読費をお支払いください。

※年会費納入後に「年間購読」を申込みご希望の場合は、事務局 (secretariat@jsise.org) までご連絡ください。年間購読の請求書をお送りし、会員種別変更の手続きを進めさせていただきます。

北信越支部より活動報告

担当者： 香山瑞恵（信州大学）
森下 孟（信州大学）
森 祥寛（金沢大学）

2021年度北信越支部学生研究発表会は、3月6日（日）に、信州大学がホスト校となり、Zoomを用いたWeb会議の形式（オンライン型）で開催しました。開催計画当初は、新型コロナウイルスの感染もある程度の収束傾向を示しており、集合型とオンライン型が合わさったハイブリッド型の研究発表会を企画していました。しかし、残念ながら、年明け頃から感染が拡大傾向を示したため、オンライン型のみでの開催となりました。

北信越支部では、毎年、博士課程後期の学生を対象として、「研究成果を磨く」と題したワークショップも併せて開催しています。今年度は北陸先端科学技術大学院大学から1件の申込みがあり、「VOD学習を中心とした非同期型学習のモデル化と支援の試み リメディアル学習及び社会人学生の学習事例を中心に」というタイトルで発表を行っていただきました。45分という時間を上手く使って、発表と質疑応答をこなしていただきました。学生研究発表には、10件の申込みがありました。研究会には、約22名が参加し、最終的に優秀発表2名、その中から年次大会への推薦1名を選ばせていただきました。

新型コロナウイルスの感染拡大から、丸2年が経ちました。2年経った現在の感染傾向を見ると、若い世代、特に10歳台からそれ未満に感染が広がっているようです。今後もこのような感染傾向が続くのであれば、私たちは、コロナ下における学校教育の在り方を、より積極的に検討、研究していく必要があるでしょう。そこでは、本学会に参加されている先生方が積み重ねてきた研究成果などが活かされていくはずですが、活かされる理由を考えると複雑なものも感じますが…。そして、この2年間で、さまざまな会議やシンポジウム、研究会などに、オンライン型で参加するという事に慣れてしまうと、オンラインの利便性をしみじみと感じます。一方で、食事会や飲み会などを含む、インフォーマルな部分での話し合いは、この2年間まったくできていません。私たちにとっては、単に残念なだけですが、学生にとっては、インフォーマルな場で交換できる情報に振れることができないのは大きな痛手です。もう1、2年もこの状況が続くようなら、インフォーマルな場を全く経験せずに卒業してしまう学生もでてくることでしょう。それこそ大きな問題であるのでしょうか。ですので、ここ2年ほどは、毎回書いていることですが、来年こそは、顔を合わせた学生研究発表会を開催したいものです。

関西支部より活動報告

教育システム情報学会関西支部の産学連携研究会を、2022年3月25日(金)にオンラインで次の通り開催いたしました。

テーマ：「PBL教育のためのファシリテーションスキル教育の実践と効果」

日時：2022年3月25日（金）16:00～17:00

場所：オンライン

講演者：PI&FT（Professional Instructor & Facilitator Training）代表 毛利 幸雄氏

参加者：44人（参加登録:57名）

近年、PBLによる教育が広まりつつあります。情報系のPBLでは、学生が複数人のチームを組んでソフトウェア開発に取り組むことがしばしばあります。そのような状況においてPBLの効果を高めるためには、それぞれのチームのメンバーがいかにして議論を活発に行い、合意形成できるかが重要となります。PBLの初期段階において、ファシリテーションスキル教育を実施することにより、学生がチームでの議論や合意形成を円滑に行えるようになることが期待されます。

そこで今回の研究会では、PI&FT代表の毛利 幸雄氏よりPBL教育のためのファシリテーションスキル教育の実践と効果についてご講演いただきました。副題は「enPiT1・enPiT2におけるファシリテーションスキル教育の取り組み」であり、以下の流れで講演が行われました。

- enPiTの活動について
- ファシリテーションスキルとは何か
- ファシリテーションスキルの適用範囲
- 身近なチーム活動をハイパフォーマンス化する
- ファシリテーション授業の必要性
- ファシリテーション授業の特徴
- ファシリテータの行動評価基準表
- ファシリテーション授業5コマの流れ
- 5コマコースの評価結果(アンケート集計結果)
- ファシリテーションスキル授業の具体的効果
- 社会人の受講所感より
- 学生の受講所感より
- 行動変容アンケート調査結果(2016年実施)
- ファシリテーションスキル授業が与えた影響

講演に続き、ファシリテーションに関する質疑が活発に行われ、参加者のファシリテーションに対する知見が深まり、有意義な研究会となったと考えています。

四国支部より活動報告

担当者： 岡本 竜 (高知大学)
後藤田 中 (香川大学)
米谷 雄介 (香川大学)

令和3年度の四国支部の取組みとして、JSiSE 学生研究発表会四国地区におけるメタバースプラットフォーム cluster (<https://cluster.mu/>) を活用した事例を紹介する。図1に発表会の様子を示す。発表者、聴講者はアバターを操作して仮想空間を移動し、マイク、テキストチャット、非言語表現（いいねマーク、ハートマークなど）を利用して、他者とコミュニケーションを取ることができる。発表者はメディアファイルを事前に登録しておき、発表の際にファイルを選択し、会場に設置されている投影領域に表示することができる。対応しているファイルは、画像、PDF、動画、BGMの4種類である。



図1 発表会の様子

実際に、発表者は、PowerPoint ファイルをPDFに変換してプレゼンしたり（図2）、デモ動画を再生したり（図3）した。また、事前にプレゼンテーションの様子を録画した動画を流した発表者もいた。質疑応答では、質問者は質問の意思表示のため、アバターを壇上近くまで移動させた後、座長からの指名を受けた後に質問をおこなった（図4）。意思表示がわかりやすく、座長はスムーズに指名をおこなうことができた。



図2 PDF資料の投影



図3 動画の投影



図4 質疑応答の様子

すべての発表が終わった後、発表者はA2会場で待機し、審査員は別の空間で審査をおこなった。審査においては集計結果を即時共有しやすいビデオ会議を用いた。その後、優秀発表者の表彰（図5）、審査員の講評（図6）、記念撮影（図7）をおこなった。



図5 優秀発表者の表彰



図6 審査員講評



図7 記念撮影

最後に運営における注意点を述べる。会場は、clusterの「イベント」を利用した。「イベント」のプライバシーは「公開」「限定公開」を選択することができる。「公開」は、不特定の第三者がイベントを検索・アクセスでき、一つのイベントにつき開催時間が最長4時間と定められている。「限定公開」は、URLを知っている人にアクセスを限定できるが、開催時間が40分間と短い。今回は「公開」を選択し、発表者、聴講者には事前に説明をした上で実施した。このため、今回、マイクのコントロール権限は、発表者および審査員のみを与える運用とした。そのため、事前にclusterのIDをご連絡いただくか、運営側で判別できるようにプロフィールを実名で記載するように対応をお願いした。

広報からのお知らせ



Twitter アカウントの紹介

2016年8月下旬より、全国大会開催に合わせて学会の公式 Twitter アカウントを開設しました。本アカウントは原則として当学会の広報を目的とした配信専用としております。本学会へのご質問・お問い合わせは、学会事務局（secretariat@jsise.org）へお願いします。

<https://twitter.com/JsisePr>

◇ 2022年3月22日現在、フォロワー数 259 アカウント



Facebook ページもご覧ください

教育システム情報学会の公式 Facebook ページを運用しています。本ページでは、論文・発表募集や本学会に関連するイベントの情報などをお届けしています。ぜひ、ご覧下さい。

Facebook ユーザの方は、ぜひ、「いいね」をお願いいたします。

<https://www.facebook.com/jsise.org/>

◇ 2022年3月22日現在、いいね 488 件、538 人フォロー

Twitter, Facebook への情報掲載の依頼などは学会事務局（secretariat@jsise.org）までお問い合わせください。



他団体 協賛・後援イベントのお知らせ

協賛「2022年度工学教育研究講演会」

日時：2022年9月7日（水）～9月9日（金）

会場：関東地区大学キャンパスとオンライン開催

後援「第33回全国高等専門学校プログラミングコンテスト」

予選：令和4年6月25日

本選：令和4年10月15日（土）～10月16日（日）

協賛「第3回学力向上アプリコンテスト」

日時：2022年4月1日～2022年12月10日

会場：オンライン開催



国際会議のご案内

- 2022年4月開催

SITE 2022: 33rd annual conference of the Society for Information Technology and Teacher Education

開催期間 : April 11-15, 2022

開催地 : San Diego & Virtual

URL: <https://site.aace.org/conf/>

- 2022年6月開催

EdMedia + Innovate Learning Summit

開催期間 : June 20-23, 2022

開催地 : New York City

URL: <https://www.aace.org/conf/edmedia/>

Final Call: April 25

- 2022年8月開催

IFIP WCCE 2022: World Conference on Computers in Education

開催期間 : August 20-24, 2022

開催地 : Hiroshima

URL: <https://wcce2022.org/>

- 2022年10月開催

SITE Interactive 2022

開催期間 : October 5-6, 2022

開催地 : Online Conference

URL: <https://site.aace.org/online/>

- 2022年11-12月開催

ICCE 2022: 30th International Conference on Computers in Education

開催期間 : November 28 - December 2, 2022

開催地 : Kuala Lumpur, Malaysia

URL: <https://icce2022.apsce.net>

Submission Due (Main conference): May 16



会費納入のお願い

学会の運営は皆様の年会費で支えられております。今年度の年会費が未納の方はご入金をお願いいたします。なお、10月以降に年会費が未納の場合、学会誌の送付が一時休止されます。入金確認後、入金日の翌月末までに今年度内の未送付分も合わせて学会誌の送付を再開いたします。3月末までに入金を確認できない場合は、未送付分の学会誌はお送りできなくなりますので、お早めにお手続きをお願いいたします。

URL <https://bunken.org/jsise/mypage/Login>

※会員専用ページのURLは、会員情報管理システムの業務委託をしている株式会社国際文献社のものです。

- 「銀行振込」をご希望の方は、下記のいずれかの口座へお振込みをお願いいたします。

■振込先

◆ゆうちょ銀行

口座記号番号：00180-6-709632

加入者名：一般社団法人教育システム情報学会

フリガナ：シャ)キョウイクシステムジョウホウガックイ

※他金融機関からゆうちょ銀行に振込む場合

銀行名：ゆうちょ銀行（金融機関コード：9900）

店名：〇一九 店（ゼロイチキユウ店） 預金種別：当座 口座番号：0709632

名義：一般社団法人教育システム情報学会

フリガナ：シャ)キョウイクシステムジョウホウガックイ

◆三菱UFJ銀行（金融機関コード：0005）

店名：上新庄支店（カミシンジョウ支店）

預金種別：普通 口座番号：0142708

名義：一般社団法人教育システム情報学会

フリガナ：シャ)キョウイクシステムジョウホウガックイ

◆みずほ銀行（金融機関コード：0001）

店名：茨木 支店（イバラキ支店）

預金種別：普通 口座番号：1399483

名義：一般社団法人教育システム情報学会

フリガナ：シャ)キョウイクシステムジョウホウガックイ

- 請求書・領収書（支払い後）は、マイページでオンライン発行できます。
- 請求書・領収書の郵送をご希望の方は、事務局（secretariat@jsise.org）までご連絡ください。

※団体名でお振込みいただきますと、個人を特定できない場合がございますので、振込名に会員番号またはお名前をご入力いただくか、難しい場合は、振込内容を事務局までご連絡いただければ幸いです。
※所属が変わった方は、マイページにログインした際に、連絡先などを変更するようお願いいたします。

【過年度年会費を支払われていない方へ】

マイページでは、全ての年度の未納金額を合算した金額が請求されます。先に本年度以前の分のお支払いを希望される方は、先に郵送された払込用紙付請求書をご利用になるか、学会事務局（secretariat@jsise.org）までご連絡下さい。

※会費のお支払いが確認できない場合、学会からの送付物を停止させていただく場合があります。また、会員資格停止の手続きを進めさせていただく場合があります。

ご不明な点は、事務局（secretariat@jsise.org）までお問合せ下さい。

〒162-0801 東京都新宿区山吹町 358-5 アカデミーセンター
Tel:03-6824-9376 Fax:03-5227-8631 Email : secretariat@jsise.org



事務局より



会員専用ページのご案内

URL : <https://bunken.org/jsise/mypage/Login>

※会員専用ページの URL は、会員情報管理システムの業務委託をしております株式会社国際文献社のものです。

■会員専用ページでは、以下のことができます。

1. 会員個人ページでの、現在の登録情報の確認・変更
2. 年会費納入状況の確認
3. 会費の納入、クレジット/コンビニ決済
4. パスワードの変更

会員種別、フリガナ、研究報告年間購読の登録等はマイページでは変更できませんので、お手数ですが JSiSE 事務局会員窓口 (secretariat@jsise.org) までご連絡をお願い致します。

ログインには、ID とパスワードが必要です。

パスワードをお忘れになった場合は、上記ウェブサイトにて照会できます。何かご不明な点がございましたら、JSiSE 事務局会員窓口 (secretariat@jsise.org) までご連絡ください。

今後とも教育システム情報学会の活動にご理解ご協力のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。



入会のご案内

入会をご希望の方は、下記のサイトよりオンライン入会申込フォームにアクセスしていただき、お申し込みをお願いいたします。

URL : <http://www.jsise.org/admission/index.html>

☆キャンペーン☆

※現在、本学会開催の研究会等で、会場にて新規お申し込みいただいた方には、**入会金を無料にさせて頂くというキャンペーン**を行っております。そちらも、合わせてご案内いただきますようお願いいたします。



新入会員のご紹介

下記の皆様が新しく入会されました。(2022年1月19日～2022年3月24日)

本学会での益々のご活躍を期待しております!

会員名	会員種別	会員名	会員種別
菅谷 みどり	正会員	可部 繁三郎	正会員
二瓶 裕之	正会員	金山 岳生	学生会員
西牧 可織	正会員		

(計5名)